

“100歳展”に意欲「寝るより描きたい」

4時代生き抜く洋画家 鈴木健夫さん(95)

回 会 報

170号

新日本美術協会

事務局
横浜市港南区港南台
1-39-5
鈴木忠義方
TEL.045-832-0504

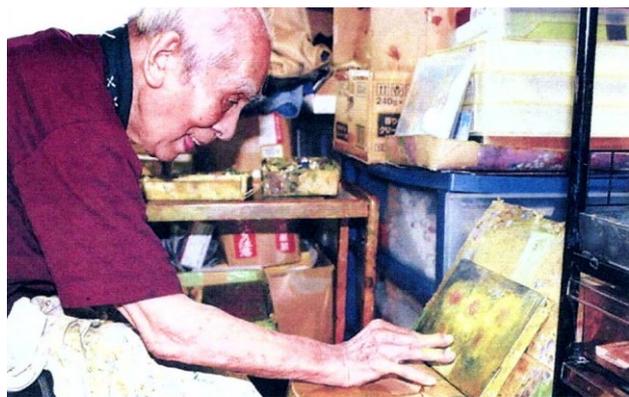
編集委員
石原修
早田美智子
小高峯夫
篠光定
湯澤朱美

原稿常時募集
次号令和2年8月予定

生きる力支えるもの

「人生一〇〇年時代」生き生き過ごす秘訣聞く

健康長寿県・信州には、八〇歳を超えても生きがいや夢、目標を持ち、活力あふれる生活を送っている人が大勢いる。「人生一〇〇年時代」を生き生きと過ごす秘訣はどこにあるのか。中信地域で精力的に活動する人生の先輩たちに聞いてみた。



指を使って絵を描く鈴木さん

「絵は自己表現の場。いろいろな人に助けられて自分は生きていく。支援してくれる人への感謝の気持ちで創作の原動力です」。老人ホーム「愛香里」で暮らす洋画家の鈴木健夫さん(九五、松本市梓川倭)の活力の源は絵画制作だ。

東京と白馬村を拠点に、油絵の創作や絵画教室などの活動をしてきた。教室で学んだ生徒や創作活動を通じて知り合った人たちが、鈴木さんを訪ねて話をしたり、作品のモチーフになる花などを差し入れたり、スケッチのために外出する際の手伝いをしたりと支援を

している。

一〇年ほど前から病気のため手が震え、絵筆を持つのが難しくなった。だが絵を描くことは自身のライフワーク。やめる選択はなかった。今は自作のイーゼルや膝に載せたキャンバスに向かい、手のひらや指、爪を筆代わりに描いている。

五月には梓川アカデミア館で個展も開催。常念岳などの風景画や静物を描いた八二点を展示した。次の目標は、五年後に迎える一〇〇歳記念の個展だ。足が不自由なため、自室から見える風景や、花などの静物を軸に作品づくりに励む。「一〇〇歳展までに新作を五〇点くらい描きたい」と意欲を見せる。

楽しいことに、より多くの時間を割く。大正、昭和、平成、令和と四時代を生き抜いてきたアーティストの活力源は、その辺りにありそうだ。

MGプレス(信濃毎日新聞系列)掲載記事を引用しました。



個展には約80点の作品を展示した

委員コラム

古くて新しい般若心経



小高 峯夫

私がこの経に関心を持つようになったのは、一〇数年前になるが、支部に入会してきたある女性の影響だった。Yさんというこの女性は一見お経などには無関心でどちらかと言えばおしゃれの流行を追う様な人に見えた。そのYさんがスケッチ会の旅先である寺に行った折、持参してきた自筆の般若心経を奉納、しかも奉納金一〇〇〇円を添えたので驚いた。私のお賽銭はせいぜい五円(御縁)なので随分太っ腹だと感心した。又その晩、宿の部屋で休んでいると画用紙に鉛筆で書いた般若心経を持ってきて難しい漢字をすらすらと読みあげたのでまた驚いた。後日Yさんは深刻な持病を抱えていて信仰する様になったのだと知った。

般若心経は世界的に知られており、かのジョン・レノンもヒット曲イマジンで♪天国も地獄も無い、国も国境も無い、財産も無いという様に、般若心経で二一〇回繰り返される無を取り